

ボサノバコンサート

12月12日、中尾児童館で東京のNPO法人Instruments for childrenによるボサノバコンサートが行われました。これは、熊本地震で被災した子どもたちの心のケアを目的としたコンサートで7月に行われたアートコンサートに続く第2弾です。

同和保育園、浜町保育園の園児約30人が参加し、体で音楽を表現したり、「キラキラ星」や「チューリップ」を出演者と一緒に合唱しました。中でも園児が夢中になったのはmococoと呼ばれる筒状のバチで叩き音を出す木製の打楽器です。

mococoを使い「おもちゃのチャチャチャ」や「幸せなら手をたたこう」を演奏し楽しみました。

また、同日に中島小学校でも同コンサートが行われました。



みたけ竹灯り

12月31日から元旦にかけて、男成神社でみたけ竹灯りが行われました。

これは毎年、男成神社の参道に竹灯りで初詣に訪れる方々を迎えようと言われています。

今回は、昨年の熊本地震を受けて、「復興」や「ガンバろう」とメッセージが竹灯りで描かれていました。「復興」のメッセージの隣には光り輝く熊本城があり、ほとんどの方が足を止め、「これはすごい」と竹灯りで表現された熊本城を見つめられていました。

当日は地域内外からたくさんの方が駆けつけ、思い思いに写真を撮る人や一つずつじっくり竹灯りを見つめ「今年もきれい」と竹灯りに癒される人の姿もありました。



しめ飾りづくり教室

12月26日、清和集落センターでしめ飾りづくり教室が行われました。対象は小学生からお年寄りまで、今回は10名参加され、夫婦しめ飾りを作成しました。

清和地区の米生・小峰地域では、しめ縄ではなくしめ飾りを継承している地域があり、その地域の和光教室の方を講師に毎年年末に行われています。

材料は黒米の藁、うらじろ、松竹梅、だいたい、亀・鶴・扇の飾りなどを使用し、始めに全員で藁のねじり方をなどの基本を学び、慣れてきたら本番に取り掛かります。

毎年参加される方は慣れた手さばきであっという間に出来上がり、初めて参加された方も講師の方にアドバイスを受けながら慎重に作成し完成させました。

「これでよか年ば迎えられる」としめ飾りの出来栄えに参加者は満足されていました。



子どもたちの笑顔のために

12月14日、浜町第二保育園で自称「名もない劇団」による「ガラスめだまときんのつこのヤギ」の人形劇が行われました。

これは、今年の2月に当時の潤徳小学校6年生の保護者により行われ、「ぜひ保育園でもしていただきたい」と要望があり公演されることになりました。

ストーリーはロシアの絵本で、おばあさんが大切に育てた麦畑にヤギが現れ食べ散らかしてしまいます。そのヤギをクマやオオカミが追い出そうとしますが敵いません。ところが登場する動物たちの中で一番小さなハチがヤギを退治してしまいます。

劇中には子どもたちが「でていけー」と動物たちと一緒にヤギを追い払う場面も見られ、「たのしかった、おもしろかった」と子どもたちからは大好評。

名もない劇団の皆さんは「子どもたちの笑顔のために、今後は依頼があれば公演に行きたい気持ちはあります」と話されました。



本物の舞台芸術を

12月12日、潤徳小学校の体育館で東京演劇集団「風」による「星の王子さま」が公演されました。これは、文化庁主催の「文化芸術による子どもの育成事業」で、体育館には本格的な舞台装置のもとプロの劇団員による舞台芸術を披露されました。

演劇は前半、後半の2部で行われ、1部では5～6年生、2部においては全校児童が出演者と一緒に歌を披露しました。

歌は11月に劇団員による指導も行われ練習をし、「当日は練習以上の声が出ました」と劇団員の方は話されました。

児童代表の挨拶では「みなさんの丁寧な指導ありがとうございました。星の王子さまと一緒に歌うことができて貴重な体験になりました」とお礼を述べました。

この日は地域の方も約50人訪れ、大変盛り上がりを見せました。

また、同週の16日には御岳小学校でも行われました。



RKK ラジオパーソナリティーすみママサプライズ登場!

12月18日、図書館ホールで開催したクリスマス会で、RKKラジオでお馴染みのパーソナリティーすみママが絵本「サンタクロースとぎんぐま」の読み語りをしてくれました。

また翌日の19日は、大川保育園と浜町第二保育園を訪れ、絵本の読み語りをしてくれました。大川保育園では絵本「ソメコとオニ」と「花さき山」の2冊を、浜町第二保育園では「ソメコとオニ」と「スイミー」の2冊を、保育園のこども達は、すみママの訪問に大喜び。「絵を見せて〜」とか「魚いっぱい知ってるよ」と言ってお話に関心を寄せました。



クリスマス会で読み語りをするすみママ